



未来に向かって絆を高めましょう

長野県連合婦人会会長 中條 智子



平成30年度の県連婦事業も会員の皆様の心を一つに、やり遂げる強い気持ちによって計画通り進めることが出来ました。例年の「ウイミンセミナー」や「平和のつどい」も楽しく学び、お互い共有でき、それぞれ有意義な研修であったと思います。そして、今年度は特に長野県が当番県ということで、全地婦連の「関東ブロック会議」を開催しました。県連婦の各事業とは違い、連日緊張の日々でしたが、関わった役員さん始め皆様が、心を合わせ一生懸命取り組まれました。お陰様で参加の皆様に、長野の魅力を存分に発信出来たと思います。また、長野県教育長との懇談会では「夏休みのアンケート」を中心に活発な意見交換が出来ました。

私たちは今、大きな時代の転換期を迎えています。イクボス・温か(あったか)ボスの心で、柔軟に物事をとらえ日々研修を重ねることで、次の世代のためにひとり一人が学び絆を高め、地域の課題を解決していかなければと思います。
(夏休みアンケート調査結果報告は4ページ)

長野県教育委員会教育長との懇談会

期日：平成31年1月22日(火) 会場：長野県庁 議会棟会議室

講演 「夏休み期間のあり方について」 長野県教育長 原山 隆一氏

「社会は変わっていく→私達の考え方も変わっていかなければ…」いままでの長野県では、長い中間休みなどがあつたりして、夏休みが短い、夏休みをもっと長くし、個人の自立心を作る。昔と違い、ない物がない現代に育った今の子供たち。雇用制度等も変わり、これも見直され変わりつつある。自分らしさ、社会に出た時個人の考えのあり方、きちんと行動できる子供、また、社会からも認められる子供たちでありたい。自分だけの考えではなく、皆の価値観で幸せを経験できる、それには長い夏休みを考えたい。「社会教育→地域で子供達を育てる」とのお話でした。 須坂市 竹前 美枝子

意見交換

①夏休みを長くする事について —子供達がサマースクールを考えてみては？—

社会教育の中にカリキュラムとして入れていったらどうか。高校生等が自主的に計画を立て、主体制をもって大人と一緒にやるようにしたら良い体験ができる。宿題だけでなく、地域と一緒にプログラムを作ってやることも大切ではないか。環境の変化の中で、今まで最適であったものが効力を失うこともある、目的に照らして柔軟に見直し最適化を図っていくことが必要ではないでしょうか。

②夏休み中1人で家にいてスマホ・ゲームのやりすぎ等、悪影響について

今年度県教育委員会で実施した「インターネットについてのアンケート」の調査結果でも、長時間使用と、ネットの依存傾、低年齢化が進行していることを捉えており懸念している。すでに中学、高校へは講演会やリーフレットの配布、指導者研修会を行っているが、今後は依存や健康被害の内容を充実させていきたい。低年齢化の課題に対応するためには、保護者の理解や協力が不可欠！親子の対話や家庭でのルールづくりが促進されるように働きかけていきます。 安曇野市 小林 寿美子



ウイミンセミナーながの2018

期日：平成30年6月7日(木)
会場：長野市生涯学習センター

講演 演題「文章を書く」

講師 元信濃毎日新聞論説委員 三島 利徳 氏

「文章を書く」という演題は、4月から役員となった方には良い企画です。

まず日本語が時代と共に変わってきていること、言葉は生きていること、言葉を逆の意味に使うのは抵抗があると話され、新しい広辞苑について説明しました。

「井上ひさしの作文教室」から名言を選び、①題名をつける②誰にでもわかる様に書く③字引を置く④いきなり核心から入る⑤句読点（、）の打ち方⑥改行等の解説がありました。

「機関紙原稿の書き方」については「記者ハンドブック」を利用している。特に用語は「正確でわかりやすく」と話され、

- 1 分かりやすく親しみ深い言葉を正確に
- 2 一般的でない専門用語は避ける
- 3 外用語をみだりに使わない



- 4 略語、略称は初出から単独では使わない
- 5 文語や古くさい言い回しはしない
- 6 紋切り型やマンネリ表現を使わない
- 7 重複表現は使わない
- 8 不要な語は使わない
- 9 一つの文節中次の語を重ねない（ので、が、ため、こと、もの、ところ）

◎機関紙原稿の書き方として、新聞のようにリード部分で結論や要旨を先に書く。

◎機関紙では挨拶文は重要だが、活動の具体的な報告や読者が知りたい大事な情報を入れることも良い。先生おすすめの本を読んで勉強しなくては、と思った日でした。 飯田市 近藤 陽子

講演 演題「健康づくりを次に進めるために～生活習慣を見直そう～」

講師 長野県消費者団体連絡協議会 会長、元信州大学名誉教授 鶴飼 照喜 氏

「エシカル消費」って？

「エシカル」とは「倫理的・道徳的」という意味で、エシカル消費は人や社会、環境に配慮したものやサービスを選んで消費するということです。

講師の鶴飼先生は、「思いやり消費」ではないかと話しておられました。

長野県は、男女共に平均寿命が高いが、健康寿命が低い。健康寿命とは、医療や介護を日常的に必要なとせずに自立した生活ができる期間です。

寝たきりにならないために、自分で何ができるか。またどんな努力をすればいいか。これは医療費抑制

にもつながることです。各地域での健康診断の受診率の低さも影響しています。

人とのつながり、関わりが大事であると言われていました。人生100年時代がきたら、私たちの生活はどうなるんだろう。また、人生100年時代にどう備えるか。

婦人会では、「元気でやる気実践事業」を各地域で行なっていますが、これこそがエシカル消費であり、寝たきりにならないための活動ではないかと思えます。自分や家族の為にも健康でいられるよう意識し行動していこうと思いました。

佐久市・北佐久郡 奥村 繁子

加入電話・INSネットの「固定電話」をご利用のお客さま **NTT東日本**

2024年1月以降、電話を提供するNTT東日本の局内設備を切替いたします。**設備切替後も、お手続き不要で、「固定電話(通話)」およびお客さまがご利用中の電話機などはお使いいただけますので、ご安心ください。**

「固定電話の設備切替」等に便乗した虚偽の情報に基づく悪質な販売行為にご注意ください。

お客さま宅内の電話機の交換や回線の切替工事は必要ありません。

NTT東日本 問い合わせセンター **0120-815-511**

【受付時間】午前9時～午後5時(年末年始を除きます)

K18-10320【1903-2002】

安心・安全の目印Sマークとは？



厚生労働大臣認可

理容店・美容店・クリーニング店・めん類店・一般飲食店

Safety.....安全であること
Standard.....安心であること
Sanitation...清潔であること

Sマークのお店をご利用ください。

2018年 世界をひとつに 平和のつどい

期日：平成30年8月9日(木) 会場：長野県男女共同参画センター「あいとぴあ」

講演 演題「未来の平和に向けてー満蒙開拓の歴史からー」

講師 満蒙開拓平和記念館 館長 寺沢 秀文氏
約8年間をかけて阿智村に、全国唯一の「満蒙開拓平和記念館」が平成25年4月に開館、予想を上回る反響がありました。

一昨年11月、天皇皇后両陛下の強いご希望で、満蒙開拓記念館に来館されました。

戦前「開拓」という言葉で、多くの人々を旧満州に送り込み、現地の人々の家や土地を奪い、中国人や朝鮮人を小作人として使用、その悲しみと恨みが、ソ連軍侵攻時に現地の人々による日本人襲撃となり、開拓団員らの悲惨な逃避行、集団自決など特に女性、子供、老人等弱者が犠牲になり、この時に日本人残留孤児や残留婦人が生れたが、決して忘れてはいけないことは、日本人残留孤児を救ってくれた「中国養父母」の恩義。

長野県は全国で最も多くの満蒙開拓団を送り出した地域、国策として人減らしや、子沢山で貧しさよりも行政や教育界が大きく関与した。14才から17



才の満蒙開拓青少年義勇軍を渡満させたあの時代に「国賊」非国民と非難されても村からの送出に反対した大下條村の佐々木村長のような人もいた。記念館では開拓団の苦難と涙の思いを語り、史実を伝え、地域に密着した歴史を共に学び、平和への発信をしたい。皆様ぜひご来館下さいとのお話でした。

千曲市 宮坂 ケイ子

午後の部は「原爆をゆるすまじ」のBGMでスタート。

ビデオメッセージ

茅野市在住で日本被団協事務局次長、ヒバクシャ国際署名長野県推進連絡会会長 藤森俊希氏制作、伝言「きこの雲の下 僕は1才だった」を放映。世界で唯一の原爆被災国広島、長崎は1945年8月6日、9日と頭上より原子爆弾による猛烈な洗礼をうけてしまった。一瞬にして火の海と化した両地でありました。そのような地獄をどの国の誰にも味合わせたいいけないの思いの中、核兵器禁止条約の締結がご自身の被爆経験を元に2017年7月結ばれました。核兵器核不拡散条約



の制定、核兵器のない世界、今こそ核兵器を持たない時代に突入すべきだと強く訴えておられました。

朗読

日本朗読検定協会シニアプロフェッサー・検定員中澤由佳さんによる「小さな雪の町のものごとより」ともしびが朗読されました。バスの中での出来事の一つの物語として語られ悲惨な戦争体験者のお二人から成るお話に聞き入る事が出来ました。耳障りの良いお声で、またおだやかな口調の語りを拝聴出来ほっとしたひと時でした。

合唱

諏訪ふるさと合唱団の皆様による「平和の旅へ」長崎の被爆者渡辺千恵子さんの半生を合唱と語りで構成した組曲でした。一人の女性が受けた被爆というつらい悲しい出来事を世界に訴え、焼き尽くされひきさかれた長崎を物語にして、被爆体験と被爆記念日に是を語って欲しいとの言葉にためらいもすてて苦しみの日々を、また胸の内の思いを全て語り明かす決心をするまでの物語でした。合唱団皆様の気持ちの入った素晴らしい演出に会場にお集まりの皆様からは万雷の拍手が鳴り響きました。

岡谷市 上沼 縁

